



このところ慣れない仕事ばかりで気持ちが落ち着かないが、考えてみたら、慣れた仕事をしているなんてのは久しくなかった。今までずっとそんな仕事が出るのかなーなどという一抹の不安がよぎる仕事ばかりだ。英語なんかまったく話せないまま会議もあるというバングラへ行ってしまし、今日もドイツの高級車の日本国内の販売店を回って店舗のデザインを調べる仕事に首をつっこんでしまった。大体 運転免許も持っていないがこれは秘密だ。しかしまあ言いたいことだけは言ってこなければとは思っているが、行ったことのない土地を何日かかけて、飛行機や電車を乗り継いで調査に回ってくるのだが、ドイツ車だろうとバングラの便所だろうと、私には同じ事で、バングラの村で鍛えた歩測などの技術を高級車のディーラーの調査にも活用してやればいゝのだとけっこう気楽なのだ。

デザイナーや建築家達は一生涯この仕事の意味や方法を教えてくれるが、何しろ肝心の言葉がみんな外国語だから、良くはわからないけれども、ゆっくり考えてみると、そう難しいことを言っているわけではなく、当たり前のことを難しく話していることに気がきます。

専門家達はいつも自分たちの間にはしか通用しない言葉をたくさん使って、いかにも専門家風であるけれども、たくさんの人に来てみると、本当によくわかっている人の話は、素人にも良くわかり、納得して聞いているから忘れないものなのだ。もっとシンプルに話すことが出来るようにするのは結構知識や思いやりや、まともな生活態度などがたくさん必要なのだ。

今ここでシンプルと書いてしまったけれども、そんな言葉一つでも、もっと美しく簡潔な日本語はないかなと思うと、結構出てこないものです。そしてそういうことを考えながら相手に一番うまく伝わる方法で話したり書いたりすることは、やっぱりずいぶん大変なことで、中途半端にものを考えている程度の、ちょっとした物知りや、英語を多用して逃げてしまって、相手が理解しないのは相手が悪いと割り切ってしまう。

まあ、そんなヒトに私はなりたくないと、本日は、まあ、そう思ったわけです。そんなことが出てくるのも最近デザイナーとか、結構芸術家肌や、建築家の先生方とふれあう機会が多いせいなのでしょう。

まあ、ここ数ヶ月でいろいろなこと首をつっこみながら、食っていける道を探していかなければならないなーと、相変わらずですが思っています。

それから「日本下水文化研究会」というのに入りました。バングラで水を使って手で拭く便所を作っていたらなんだか、便所や下水がおもしろくなってしまって、東南アジアでも日本でも違った意味ではあってもたくさんの問題を抱えている下水をもっとやってみたくなりました。そんなこんなで何となく方向を模索しているなど、そう思っています。

4月の「まなざし」の編集は16日です。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com